

<特集> 2019年度特別講演会 講演録「老後は年金で大丈夫か？」 - 金融庁報告書をめぐって -

雑誌名	現代社会研究
巻	17
ページ	139-154
発行年	2020-03
URL	http://doi.org/10.34428/00011793



現代社会総合研究所 2019年度特別講演会 講演録

「老後は年金で大丈夫か？」

－金融庁報告書をめぐって－

「年金不安」に関する議論がにわかに関心されている。発端は金融庁のワーキンググループの報告書であるが、メディアで取り上げられているのは「2000万円の貯蓄」「貯蓄から投資へ」というキーワードが中心になっている。少子高齢化はいま問題になったわけではなく、年金問題は以前から取りざたされているのになぜいま、大きく炎上したのか？ 本質的な問題はどこにあるのだろうか？ 原口一博代議士をお招きして講演を拝聴し、この重要な課題に真剣に向き合いたい。

コーディネーター：澁澤健太郎（現代社会総合研究所運営委員・経済学部教授）
（2019年7月29日（月）東洋大学白山キャンパス「125周年記念ホール」）

澁澤健太郎（現代社会総合研究所運営委員・経済学部教授）

本年度の現代社会総合研究所の主体によります特別講演会をこれから実施いたします。

本日は中央のほうからですね、Twitterでライブ中継をしておりますので、沢山の方がおられるのに意図的に真ん中に席を集めてご協力をいただいているということでございます。

今日の日経のほうでもトップの内容は、年金の内容についてでした。老後の年金は大丈夫かと言うことで、これ大学にとってどの学部と言うことではなくて全ての人にとって関心を持たなきゃいけない話題ではないかと、思っております。

本日の講演会は、国政選挙、参議院の方が丁度終わりました、応援等で大変にお忙しい中、原口一博代議士にきていただきまして、国政のほうからも、ご活躍をされている先生が年金問題について、争点になってきたかと思いますが、内容について、お話を直接いただくという大変貴重な機会であります。総司会は、経済学部総合政策学科の教員をしております澁澤健太郎が務めさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。それでは最初に現代社会総合研究所の所長をしております。法学部教授の齋藤よりご挨拶をさせていただきます。よろしく願いいたします。

齋藤洋（現代社会総合研究所所長・法学部教授）

ただいまご紹介にあずかりました、現代社会総合研究所所長の齋藤と申します。よろしく願いいたします。本日取り上げる年金問題は、特に皆様にとっても非常に重要な問題です。年金というのは、仕事を終えてリタイアした後の生活の糧と言いますか、基礎になるものです。この現代社会総合研究所では、現代社会の問題について考えるにあたって、現場をみななければいけない、机上の空論、あるいは、紙だけに頼って色々考えるということではなくて、現場で何が起きているのか、どういうことが話し合われているのか、何が問題なのか、そして、これからどうすべきなのか、つまり現場のことについて知ることが、学問の基礎、基礎中の基礎と考えています。そこで本日はお忙しい中、現職の国会議員でいらっしゃる原口先生にお越しいただきまして、ご講演をお願いすることになりました。原口先生よろしく願いいたします。また本日は、副学長の松原先生にもお越し願いました。松原先生お忙しい中ありがとうございます。それでは、これから非常に重要で貴重な原口先生のご講演をお願いいたしますと存じます。よろしく願いいたします。

澁澤健太郎

齋藤先生ありがとうございました。それでは大学代表の挨拶を副学長の松原聡よりお願い申しあげま

す。先生よろしく願いいたします。

松原聡（東洋大学・副学長）

皆さんこんにちは。梅雨があけまして、暑い中、原口先生どうもありがとうございます。という通り一遍の挨拶を副学長はやらないといけないんですけど。そういうキャラじゃないので。ちょっとデータをご案内しようと思うんですが、まず、この中で19歳の人いる？いたいた。これちょっと僕叱ろうと思っていたんですけど、今年の、今回の参議院選挙がありました。投票率、落ちて、48.8%かな。約49%でした。因みに、色んな年代で今年はまだそこまで詳しい数字は出ていないんですが一番高いのが実は60代でして。多分今年も7割、70%近く。19歳。19歳のみんな。一番低いんです。速報値が出ました。19歳の投票率が、28%ですから。全世帯が49に対して、19歳が28%。一番低いわけで。多分、今日原口先生がお話になると思いますが、若い世代の話、そこで政治に関心を持たないでどうするんだという、低いのは19歳だけど、やはり若い世代みんな低い。とりわけ19歳が低いんです。やっぱりそのことはしっかりと考えて貰いたいというのが一つ目です。それからもう一つ。今日年金が議論になります。これは、まさに原口先生がしっかりお話になっていただくと思いますが。簡単な話じゃないんです。どうあるべきかとかそう簡単に言える話じゃないのは。また数字を紹介します。これ生産年齢人口と言います。15歳から64歳未満。今日本7500万人います。それに対して65歳以上は、3600万人。ですから働く人に対して、高齢者の方の比率が48%。要するにこれどういうことかと言うと、働く人二人で高齢者の方一人の面倒を見なきゃいけない。こういうことですから例えば医療費とか関係なしにですよ。高齢の方の生活費が例えば20万円だとすると、働く人、高齢者の方の生活費だけに、まさに年金ですよ。10万円毎月払わないといけない。こういう計算です。ですから、これに医療費とかその他なんかも加わっている訳です。そういう意味で年金問題が大変なのはチャラにしたら賦課方式とか色んなやり方がありますが、シンプルに今の時代で横文字にしてみると、二人で一人の年金をみなきゃいけない。ということは20万円だったら働く人一人毎月10万円それだけで払わなきゃいけない、という現実ですから話は非常に深刻なんです。そういう流れの中で、足りないよみたいな議論を自由民主党が、あ、ごめんなさい。官僚ができて、今回の議論の争点にもなりました。だけど、結果を見ると、なかなか国民的な議論とか投票行動には結び付かなかったというのもひとつの事実ですから。この辺りも、是非聞いていただきたいと、こう思っています。

原口先生とは非常に長い付き合いで。色んな場所で議論をしたり、意見が一致するところの方が多分多かったと思いますが、そうじゃないところもあります。非常にこういう場で講師としてふさわしいのは、与党として大臣までなさった経験がおありですから、本当に日本の政策のありかとか、政治そのものについて、よく本当に中の中までご存じ。今は野党の立場におられますけれども、いずれ、また政治の中、行政の中でも活躍をなさる方だと思いますので。ぜひぜひ、そういうことを色んな議論の中で引っ張り出す。これもまた若い人の大事な役割であろうと思います。私のご挨拶はこれで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

澁澤健太郎

副学長ありがとうございました。それでは講演の方にこれから入らせていただきたいと思います。コーディネーターは司会同様私が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。先生よろしく願いいたします。

原口一博（衆議院議員）

皆さんこんにちは。ご紹介いただきました衆議院議員の原口一博です。今日こうやって機会をいただきまして、本当にありがとうございます。私、15人、今政策インターンを国会の方でお預かりしていますが、その中にも、皆さんの今日も、3人来てくれてますけども。とっても東洋大学の皆さん優秀で。ありがとうございます。澁澤先生のゼミの皆さんには多くの皆さんに囲まれてとってもありがたいです。

今、松原副学長がお話になられました通り、松原副学長とはもうずいぶん若いころから日本の改革をすすね。特に、情報通信、郵政、色んなところでご指導いただきました。今日は、限られた時間なんで、皆さんのお手元に 26 枚の資料をお配りしております。丁度今、松原先生がお話になったところですとね、一番最後の 26 ページをご覧ください。これが、松原先生がお話になった生産年齢人口っていうものであります。年金って大丈夫かっていう今日テーマをいただいたんですが、私は政治家なので、大丈夫じゃなくてどのように大丈夫にするかっていうのが、私達のテーマであります。これをご覧ください。今、松原副学長がおっしゃった通りですね。この赤いところが日本です。2040 年には日本の生産年齢人口。これは主要な先進国で最低になってしまう訳です。これをそのまま放置して、さっきおっしゃったような 10 万円負担をする。若ければ若いほど沢山負担をする。二人で一人を背負う。これ無理なんです。じゃあどうすればいいか。それをすすね私達はずっと探求してきました。例えばこれ。私の名刺です。ご覧になりますか。これはすすね、障害を持った人達が一枚一枚作ってくださっている名刺です。この名刺を一枚配るとその施設に 50 円入ります。何んでこんなこと言っているかという、私達はもう前ですね。障害者政策を基本とする法律は何と言っていたか。ご存じですか。この中、法学部の方もおられる。障害者保護法って言っていたんです。障害者は保護の対象だったんです。私がそれをすすね、障害者基本法っていう形に変えました。保護の対象じゃなく、権利の主体にしたんです。私の大学は、すぐ、お隣にあるんですけども、心理学と社会学と法学を勉強しました。その中で、私の心理学の友人でですね、こういう友人がいました。彼は、手も足もすすね、今回、船後さんたちが国会に来てくれますけども、手も足も、それから言葉を出すことも出来ませんでした。でも彼はカウンセリングをやりました。沢山の人の悩みを聞いてました。どうやって聞くかというとすすね、まさに松原先生ご指導いただいている。情報通信 ICT なんです。目の玉の動きを、コンピューターに読ませて、上を向けば「あ」、右を向けば「い」という風にして言葉にしています。彼はこう言いました。出来ないことが問題なんじゃないんだ。出来ることが大事だ。目の玉は動きますね。動くことが大事なんだ。障害は自分の中にあるんじゃない社会の側にあるんだ。私達はすすね、障害者って言葉を使いたくないと思っています。障害者って単なる言葉の問題だっていえばその通りですけど、ジョン・F・ケネディは、チャレンジドという言葉を使いました。チャレンジド、チャレンジって挑戦です。挑戦の受身形、生まれながらにして神様から挑戦する課題を貰った人達。生まれた後に様々な課題に、挑戦する人達。その人達、チャレンジドをタックスフェアに、というのがケネディの公約でありました。つまり、人間の尊厳を保障することによって、そして社会の側にあるバリアを取り除いていく。このことが一つ。

私、松原先生にご指導いただいて、未来の学校っていうのを、丁度 10 年前、総務大臣の時に作らせていただきました。未来の学校は何かって言うと。ICT を使って情報共有です。協働教育って皆さん聞かれたことがあります。協力のきょう、どうは働くです。NASA の宇宙飛行士のすすね、実験にこういう実験があります。この間、アポロ 11 号の記念の式典がありましたね。月に私達もその実験を受けたんですけど、月に、20 時間、ロケットが故障して、そして 20 時間生き延びなさい。どうやって生き延びますかっていう実際に NASA の宇宙飛行士にする試験です。

この試験をまあ NASA の宇宙飛行士になるような人達ですから、受けたら一人で解いた時にはすすね生存確率が 55% です。3 人寄れば文殊の知恵って言いますが、3 人で話しあってやると、75% まであがります。つまり協働。私達が今、何をやっているかと言うと、こうやって人口が減っていく。この人口の減り方はなかなかもう止めることができない。2022 年にはすすね、丁度オリンピックが終わった 2 年後ですけども。50 歳以上の女性の方が、もう半数以上になる。もう物理的に少子化対策をどうのこうの言ってもこのトレンドは変わらない訳です。さっき先生がおっしゃった通り。そうすると何をすれ

ば良いかと言うと、一人あたりの労働生産性を上げる。だから教育を、お互いがお互いを支えあう。お互いがお互いの足りないところを埋めあう。こういうことにしていく、と言うのが一つ。それからもう一つここをご覧になってください。これですね。松原先生がおっしゃった15歳から64歳の人口のすると、もう日本はどんなにあがこうが先進国の中で最低になっていく訳です。じゃあこのままで良いんですかっていうとこの赤の点線ご覧になってください。なんだか日本が一番上にきているよね。それはですね、年齢を少し取り方を変えてですね20歳から74歳。20歳から74歳まで働きたい人が、元気で働けるような環境を作ったとすると、若い人達の負担はそれだけ軽くなる。いや74歳まで働きなさいと言っているんじゃないんですよ。働けない人だっている訳だから。だけど、働きたいという思いがあったら働けるようにすると言うのがあの赤の点線。日本は世界で一番になる。つまり、健康年齢人口をどれだけ上げるかっていうのが一つの大きなテーマになってきます。さて松原先生からお話を丁度いただいたんで、一番後ろから話をしましたけども、最初に戻ってみましょう。今日はですね、年金ってというのは何かっていうと、大体制度。どのような制度にするかですね。それから管理、消えた年金の問題がありました。当時ですね、私と長妻さんたちが、年金が消えている。年金記録が消えているって言ったら、原口一博嘘言うな。長妻昭嘘つき。不安を煽るなど言うことでしたけども5000万件が消えていた訳です。この管理。それからもう一つは分業。皆さんシンガポールに行かれたことがありますか。1人、2人、3人、4人、先生方、結構ございます。5人ですね、シンガポールは、強制積み立てなんですよ。年金、テマセックっていう大きな、僕らが郵政民営化改革のモデルにした大きな持ち株会社があるんです。そこが物凄い運用していて、そして年金の積立金で、彼らが言うにはですよ、彼らが言うには一生のうち2回家を建てる事が出来る。日本のように年金大丈夫かな、って言ってるんじゃないですよ。積み立てている訳です。この運用について、制度について、管理について、運用について。ちょっと順を追って時間が無いんで。駆け足でお話をします。まあその前にですね。ちょっと聞くルール。心理学的にいうと、今日これだけの26ページを話すそうですね、皆さん家帰って熱出るんですよ。だから辛いんだったら辛いっておっしゃってください。ただ、あの濫澤先生や松原先生や皆さんにも御恩返しをしたいんで、今日全力で準備してきました。50時間位今日準備してるんです。それを45分で話すんで。ちょっとかなり無理がある。心理学の実験ちょっとやってみます。こういう実験があります。今、○を書きました。幾つか。解りますか？いくつあります。こうやってゆっくり見ると解りますよね。7つ。人間の認知ってプラスマイナス7、プラスマイナス2なんです。一遍に見える数っていうのは7。プラスマイナス2。だから7つ以上のことを一遍に言われたらオーバーフローするんですよ。

それから、人間の集中出来る時間は限られています。大体ですね、皆さんの東洋大学のような優秀な方々だとですね15分なんです。もう僕が立ってから10分くらい経ちますかね。だからそろそろ集中が切れる頃なんです。切れたら切れたって言ってください。これインターネット中継で、僕のフォロワーの約26万の人達に向けても話をしています。だからTwitterを見ていただければ、あの時何を言ったのか解ります。全部理解をされなくて結構です。さて、制度の改正、これ見てください。これね、今日の講演に向けて、松原先生。厚生労働省の人ともこれずっとおさらいしたんですよ。

これ、1万円年金って解ります。2万円年金とか、5万円年金とか、これ厚生労働省の人だって即座に答えられなかったんです。それぐらい年金っていうのは制度が変わってきているんです。しかもこんなに長寿社会じゃなかった。だから、まあこれ全部、読み上げる時間ありませんけども、制度をつくってから充実。やっぱり老後が安心なように充実させている時期、それから急に少子高齢化になってきたから、制度を多様させる時期、この3つに分かれている訳です。分かれているだけじゃなくて、それぞれの年金を接ぎ木みたいにしてるから、あの時どうだったかな。5万円年金で何かな。5万円貰えるんです。月々。でも驚きませんか？昭和40年に、1万円年金だったのが、その8年後には5万円になっているん

ですよ。これどういうこと？やっぱり政治家は若い人達が投票に行かないし、ご高齢の人ばかり行くから年金を増やして人気取りしたのかなって思ったら、そうでもなくて、その分物価が上がっている訳です。この間。今はデフレで上がらないんですよ。

これ後ろの方も是非皆さん時間があったらこんな制度改革になったんだっていうのを後でご覧になって下さい。

今日何を言いたいのかというと1つだけ。年金制度っていうのはずーっと変わってきたんだ。そして、非常に複雑なんだと言う事だけ頭に入れていただければと思います。

次お願いします。これ時々、年金の記録を盗まれた。外からハッキングされて取られたと言っている訳です。厚労省というか当時の社会保険庁の人に何でそんなことになっているんですか、って言ったら、いやいや大丈夫です。レガシーでもう今の人たちには解らない言語で書いてあるから、私達大丈夫です。古すぎて恐竜みたいのは解らないんです。って言ってるのがこのシステム。丁度松原先生にご指導いただいて、私が総務大臣の時ですね。中央省庁のコンピューターシステム、全体で1年間に4500億くらい使っているんです。でも4500億使っているわりにはパフォーマンスが悪くて、無駄なレガシー、レガシーって古いやつ。いっぱいあって、それを全部叩き出した。大体2000億くらい減らしたんですけども驚きましたね。98年当時。1998年ですよ。僕らが大学で、ポートマンとかベーシックとかその東京大学でやってた時の、でももうホコリ被ってたようなものをまだ使ってた。これメインフレーム型のですね、ちょっとまずいですね。この管理のシステムこういう状況になっている訳です。こういう管理も変えなきゃいけない。

次、これがさっきね、澁澤先生もお触れになった、年金ワーキンググループ、金融庁の年金ワーキンググループって言うんです。皆さん不思議に思いませんか？何で年金なのに、金融庁が出て来るんですか。年金だったら厚労省でしょう。或いは人々の生活だったら内閣府でしょ。何で金融庁が出て来るんだ。これで金融庁の今回の2000万円足りない。月々5万円足りないという報告書はどういう物かっていうのを頭の中に入れてください。実はですね、この報告書は、中間報告と最終報告があるんです。今日7月ですよ。7月の終わりだけど、中間報告いつ出たかっていうと、5月22日に出てる。

今日皆さんのお手元にあるのはそれです。なかなかこれ、比べると面白い。6月3日に最終報告が出来ていて。そして、まあ世間が大騒ぎになったんです。年金で食べていけると思っていたらなんと2000万円貯めろ。だって、貯蓄0の世帯どれくらいあります。そんなこと今更、今更言われたって無理だよ。そんなの話が違うじゃないかってことになったんですけども、パニックになる前に、よく見てみましょう。これがですね、4ページ。

これが5月22日に出ていて、皆さんのお手元には色付きじゃないから解らないと思うけども、TwitterとFacebookにこの資料そのままありますから、この黄色で書いているところがですね、6月3日には消されていたんです。みんなに見せたくないところ。何かと言うと、ちょっと読んでみますね。公的年金の水準が、当面低下することが見込まれていることや、退職金給与額の減少によりこうした、かつてのモデルは成り立たなくなっている。かつてのモデルって何かっていうと退職金と年金とでもって老後を暮らしていくっていうモデルのことです。それが成り立たなくなっている。公的年金の水準が当面低下する。当面じゃないんですよ。どんどん減っていく訳ですよ。だから若ければ若い人ほど、減る。それを書いてあったんだけど、やべえと思って消している訳ですよ。もっと公的年金と併に老後生活を支えてきた退職金給与額は近年減少してきている。退職金も減少してきていますね。年金も減少していますね。これを物価が上がってきたらどうなるかっていうと、今年100円で買ってた物が来年は110円だったら余計苦しくなりますよね。だからそういうことが書いてあったんですけど消されています。次を見ましょう。年金の給付水準が今までと同等のものであると期待することは難しい。今後は公的年金だけでは満足な生活水準に届かない可能性がある。だから今日いただいたテーマからすると、こ

ここに何て書いてあるかと言うと、年金大丈夫か。と言う答えはこの金融庁の報告書の6月、5月22日分の分は、無理ですって言うのが答えになります。もう一個こっちの黄色。年金制度の持続可能性を担保するためにマクロ経済スライドによる給付水準の調整が進められていることになっている。こうした状況を踏まえ今後は年金受給額を含めて自分自身の状況を見える化して、自らが望む生活水準に照らして必要となる資産や収入が足りないと思われるのであれば、各々の状況に応じて就業継続の模索、つまり仕事しなさいよ。自ら支出の再点検。削減。出るものを我慢しましょうね。そして保有する資産を活用した資産形成運用といった自助の充実を図っていく必要がある。ここも消されている訳です。つまり皆さんの年金は減っていきますよ。それじゃもう無理ですよ。だから株式投資をして頑張んなさいよ、まさにその証券会社のね、セールストークみたいなことが書いてあった。だから受け取らんの最後には無かったことにします。

こんなこと聞かれても、国会で聞かれても、答えませんってなっちゃった訳です。でも、年金問題っていうのは与党も野党も関係ないです。自民党も民主党も関係ない。皆の問題です。皆で考えなきゃいけない問題だから都合が悪いことであっても、ちゃんと考えとかなきゃいけないって言うのが今日皆さんに申し上げる2番目の点です。

今、マクロ経済スライドって出て来ましたね。マクロ経済スライドが言える方。うちの政策インターンはどうかな。頑張れ。無理か。じゃあ次頑張ろうね。マクロ経済スライドって何かって言うんですけど。これが2004年の所謂100年安心の年金改革です。それ何かって言うと、年金の被保険者って言うんだけど、さっき松原先生おっしゃった若い方々。つまり、支える方。年金て言うのは日本の場合は世代を越えた助け合いなんです。シンガポールは強制的な積み立てなんです。世代を越えた助け合いだから、若い人達が減りますねと、被保険者が減っていく。そして余命は伸びていく。だから払わなければいけない人達の、その払う時間は延びていくから何が必要かと言うと、ここに書いてある。これがもう全てなんです。年金はずっと減らしていきますよ。だから年金、マクロ経済スライドっていつてるけども、大体ね政治の世界ではカタカナ語で言うときは、皆に解りにくくしている訳です。年金減らしていくスライドですよと言ったら怒るでしょ。ほんとは年金減額スライドって言っても良いようなのがマクロ経済スライドなんです。それを3年前の改正でもう一回あの物価の分だけですね、上げませんよと、物価が上がってもその分だけ上げられませんよっていうものであります。次お願いします。じゃあこの2000万円足りませんよ。これ不正確な言い方なんです。90歳を越えて生きる為には、退職金と年金だけでは無理です。もっと運用しましょうねっていう、まあ勧誘だったんです。2000万円どっかで作った方がいいですよ。月々5万円は足りませんよ。ちょっともう皆ついてこれなくなったでしょ。深呼吸してみてください。深呼吸して。

じゃあこの2000万円、5万円足りないっていう人はどんくらいの人なんですか。これはですね65歳の夫、60歳妻で月額22万円貰っている人なんです。22万円。

じゃあ原口一博さんいくら年金貰いますか。僕、いくらでしょう。ちょっと時間がもう25分経って皆辛くなったと思うんで当ててみてください。年金30万円だと思う人、50万円だと思う人、50万円。10万円だと思う人、6万円だと思う人、皆全然解らない。レスなしね。レスしてくれた人もいるけど。6万円無いんです。何故かと言うと議員年金も無いですからね。後4か月だったんです。後4か月だったけど。河村たかしさんという人がですね、国会議員に年金なんかあっちゃいかん。って言って彼も貰ってないんです。議員年金、だから無い。だから、国民年金です。僕のことはどうでもいいけれども。

22万円という人、日本人の中でどのくらいの人でしょうか。中央値なんだろう。多くの人達が今もう所得ないですよ。所得じゃない失礼。貯蓄がないですよ。22万円というのはかなり高めの人じゃないですかというのがこれです。公的年金額の分布。これなかなか出てこなかったんですよ。どれくらいの人達が、だから、僕なんか2000万円じゃ全然足りないんですよ。7000万円とか8000万円ないと

90 まで生きられない。じゃあどうすんだと。という話ですね。現役時代の経歴類型。つまり妻の現役時代の経歴と夫の現役時代の経歴。これを掛け合わせたところで、大体日本人の、これくらいだったら、年金と退職金でなんとかやっけていけますよと言うのを、出した物がこれです。だからさっき先生がおっしゃった、政策というのは数字に基づいて、データに基づいて、やっている訳です。だから、このデータが出ないことには、どのような年金設計をして良いのか、いくら足りないのか私達民主党政権の時に、基礎年金のそれまで 3 分の 1 税が、3 分の 1 しか入ってなかったの、2 分の 1 まで増やしましたけども。それでもこんな状況。そうですね。所得代替率の将来見通し。つまり、皆さんはまだ就職されていないけども。お給料貰うようになって、そしてそのお給料の退職した後どれくらいの割合の年金がきますかねって言うのがこれです。ケース A からケース H まであって、これが財政検証って何か。5 年に 1 回の年金の健康診断みたいなもんだと思って下さい。この健康診断を 5 年に 1 回やっていて、これが前回のやつです。ケース A からつまり物価上昇率賃金上昇率、運用利回りうんぬん。経済成長率っていう形でやっけていって、一番良いケースが、想定される一番良いケースが A。これが H。今年の財政検証ってまだ出ていない訳です。どうでしょうか。実は 3 月にこの基礎となる数字が出ていて、それから類推すると、この平成 26 年 5 年前の財政検証の一番下よりもっと下だろうって言われているんです。えー困ったよねというのが現状だけ。まだそれは世に出ていないんです。だから早く出してくれ。選挙の前にちゃんと出してくれ。それは自民党でも民主党でもどっちでも良いから。自分たちの年金がどうあるべきかを本気で議論しないとまずいよねって言うのが今の状況。これが 2019 年の財政検証の枠組は出たんですけども、まだ中身は出ていない。

オプション資産。これまで入れると、まあここが出ていない訳ですけども、色々、皆さんの年金もうちょっと減らしますよ。それから年金の受け取りの時は選択制にして僕ら昔は 60 歳って言っていたけど 65 に延びた。65 を 70 に延ばす。75 に延ばすとどうなるかと。そんなことが計算されている訳です。

これが今の制度の中の検証での中身です。次、運用。運用はですね。私と長妻さん、彼は厚労大臣で私は総務大臣の時に、運用はずーっと変わってないわけ。年金はそれまでなんと言っていたかというのと、私達に公的年金を預けてくれれば、4.2% で運用して、そして、皆さんにちゃんと安心をお返ししますよ。思われるようなことを言っていたんです。思われるようなことを。思われるようなことですよ。実際そういう約束じゃないの？と今から聞くと、いやいやあれはね。目安であって、目標であって、約束ではありませんって答えます。必ず。じゃあ今の状況で国債ばかり買っていて大丈夫か。例えばインドや色々な成長点がありますね。そういう成長点にシンガポールみたいに。ちゃんと投資して国民の皆さんに安心の年金を運用でもってやることは出来ないかって。ポートフォリオって言うんですけども、松原先生、一回も動かしたことがなかったんです。それまで、それを動かしたのが僕らの政権の後です。

どんな風にしたかと言うとですね、GPIF。これ年金運用機構って言うんですけども。年金運用機構は長期的に積み立て金の実質的な運用利回り。1.7% を最低限のリスクで確保することを目標とし、この運用利回りを確保するように。て言うことで、やってきた訳です。それまでは、実は年金の積立金って言うのは、日本は国民にお支払いする給付額のですね、約 5 年分も有るんですよ。物凄く巨大なんです。だからそこをちゃんと運用すれば高度経済成長時代も超してきているんだから。年金が減るなんて有り得ないよね。だけど蟻とキリギリスじゃないけども年金のお金を使ってですね、やたらと温泉施設を作ってみたり、やたらと無駄なことをやったんじゃないんですかって言うことで、僕らはずっと国会追及してきた。それだけじゃなくて、運用についてもサボってたんじゃないですか。っていう話をしたのは良いんだけど。今どうなっているかという、年金運用のそれまで 2014 年までは、株式投資比率って言うのは 25% まででした。それが 2014 年には 5 割になっているんです。そしてさっき 14 ページ。見て下さい。65 兆円も運用益を出してくれている訳です。これ安倍内閣頑張っているんです。65 兆円。

でも株ってどうなっているかって言うと、それこそ私も松原先生も、民で出来ることは民で。市場を自由化していこうとやってきたわけです。今何が起きているかと言うと。ちょっと絵で描くとですね、巨大なクジラ。絵。これ国会議員って絵描く人結構多いんですよ。亀井静香先生って、すごくあのあんまり静かじゃない先生。あの、絵一個一億円するんですよ。一億円。僕の絵と一緒に、特集されたんです。僕の絵も一億円くらいするかなって思ったけどしませんね。これですからね。何かって言うと今何が起きているか。あれでしょ。あんだけ年金で株買っている訳です。ちょうど東京湾だとします。これが。東京湾に富士山みたいなクジラがですね、いると思ってください。でっかいクジラ。このクジラが二機、二頭いるんですよ。このクジラ、何をやっているかと言うと、東京湾の水を飲んでいる。東京湾の水は、株と国債とです。株と国債。これ一頭のクジラが年金。今200兆円年金基金。もう一頭が、もう一個でっかいクジラがいる訳です。これがアベノミクスの正体。それ何かと言うと、日銀です。日銀と年金という二頭のクジラで水を飲みまくっている訳です。そうすると何が起きるかと言うと株上がりですよ。国債も安定的に。だから今ここの後でツイッターで見てくださいね。金融のところだからちょっと難しいけども。10年後に100万円しか返ってこない国債を今154万円を買ってる訳です。買いますか？買わんでしょ？買います？

何で買っているかと言うと、このクジラが買ってくれるからです。どんどん、どんどん株と国債はこのクジラに吸われている訳です。そうすると何が起きるかと言うと、東京湾の水が干上がってくる訳です。だから今日本の企業の一番の株主は、大手企業の一番の株主は、第一株主は誰か。年金と日銀なっています。つまり官製市場。それはね、株が上がってこうやって年金運用できるのは良いですよ。だけど、このでっかいクジラだって限度があるじゃないですか。皆さんだって一日6回や7回もご飯食べないでしょ。これが限界にきてどうしたかと言うと、日銀は、もう一個胃袋を作ったんです。胃袋。それがマイナス金利です。解ります。これ金融なんで。金融のところの人は後でおさらいをしてみてください。何を言っているかと言うと、僕や松原先生は、この自由なところを増やしましょう。自由なところを。官製市場をできるだけ減らして、自由を増やしていこうとやってきたんです。それは何故かと言うと最終の買主がこのクジラになってしまうと、このクジラよりでかいものは現れない訳です。いないから世の中には。そうすると何が起きるのか。これが腹いっぱいになってきて、まあなんとかもう一個胃袋作ったというのが今の時期。今度これがパンクしたらどうなります？パンクしたらあまり考えたくない。パンクしたらこの株を買う人がいなくなる。この国債を買う人がいなくなる。つまり、あの運用実績は、今度逆向きになってしまう。だから僕は株に運用しちゃいかんとは言わん。適切なポートフォリオは大事です。けども、やるんだったら海外投資。勿論為替リスクありますよ。そのことを議論しなきゃいかんと思っています。これがGPIFの運用目標ですね。さっき言ったところです。これ年金記録問題。管理のところですね。今日は管理のところは言いません。管理のところもいかにもずさんだったんです。それは何故かっていうと社会保険庁が悪いって言うよりも、いや悪いんですよ。物凄く無責任体質だったんです。だから、分限免職って言うのを僕らの政権の時にやって、退職をしていただいたんだけど、何故こんな風になっていたかと言うと、接ぎ木に接ぎ木をして、年金の運用番号ってというのが統合出来なかった。今でも消えた年金5000万件のうちの約2000万件がまだ統合未統合。だから、これだけ複雑だから。僕の時に何をやったかと言うと、年金業務監視委員会っていうのを作って恒常的に、今、これまで言っただけでも、あーもう、辛いよね。解らんことばかりいっぱい言っているという人もいると思うんです。難しいんですよ、年金は。だから難しいからこそ専門家の人達をしっかりと、入れて、恒常的にチェックしましょうねって言うのは年金業務監視委員会。これ、すーごく助かったんです。あの東日本大震災の時もですね。ちょっともう言葉にするのが辛いけども、あの、お亡くなりになって、まだ行方不明人の方々の年金についてもどうするかって言うのが決まなくて。今、官房長官している菅さんにですね、私、直接電話して彼は、私自民党だからダメだって一言も言ったことない

んです。自民党の中にも良い国会議員いっぱいいます。3か月でこの問題を年金業務監視委員会で解決をしてくれました。それは何故出来たかと言うと、ずーっと専門的に見ていてチェックしてる人達が居たからです。ところが、この年金業務監視委員会は無くなったんです。主な活動ですからあとでご覧になってください。色んなことをやっています。うん3つもあるんですね。

事項特例これがさっき言ったものですね。ああ自殺者の年次推移。

これ若い皆さんに是非申し上げたいのは、今こんな状況になっているのは自己責任論だと。自己責任論が非常に強い。それは呪いの言葉だから絶対にそう思わないでください。自己責任だけで済むんだったら、政治は要らないんです。だからこそ、皆さんが政治に参加して欲しいんです。かく言う私もすぐその本郷に居た時は、政治家はなんか変なあの一まあ暑苦しい人。今の取り消します。当時はね、当時はそう思っていた。私の友人です、今度、6日から僕らインドとミャンマーとブータンに、派遣に行くんです。インドから来ていたんです。友人が。彼、政治家になるって。詩が好きで物凄くナイーブな子。だから君みたいだね、そんな、なんていうか心が綺麗な人が、まあ物凄く政治に偏見を持っていたから当時、ロッキード事件って物凄い疑獄事件が起きて、政治家っていうのは悪いことをする人。と思っていたんで僕らこう言ったんです。そんなことやるようだったらね、とても傷つくだけだから、なのでやめたほうが良いって言ったんです。そしたら彼はねこう言いました。一博さん、あなたね、その日本は世界一経済が伸びているけども、それ何時までも続くと思わんほうが良いよって。政治家はバカがするもんだ。政治家は変な人達がするものだって皆思っているんでしょ。僕らはすぐそこです。子供達に当時いじめが出てきていて、子供達をどうやっていじめから守るかって言うのか、児童虐待防止法とかも作りましたが。当時はそんな法律も無くて。やりました。彼はこう言いました。政治が子供達の心に投影しているじゃないか。一生懸命学校に行けるようにしてもまた戻って来るだろ。それは何か彼らが言っている言葉を聞こうよ。政治家はバカがするもんだ、嘘つきがするもんだ、変な人達がするもんだって言っていて、おじさん長いものに巻かれて強い人間が勝つんでしょって言うじゃないか。だからこそ、自分達は政治家になってインドを変えるんだ。当時インドはですね3000におよぶカストという制度があって、一番一抑圧された人達はですね、子供さんの手足を切って、物乞いをさせているんだ。それを自分がね、帰って変えるっていうのはどこがおかしいんだ。日本は30年後にはインドが抜くよ。と言いました。その30年がもう5年前に来ました。いや抜かれているんです。最後から二番目を見てください。これですね。各国の20年間の名目GDP成長ランキング。日本どこだと思われま。ダントツのマイナス19位。これドルベースだからなんだけど。ダントツのマイナス19位なんです。世界最大の経済大国ですよ。日の上るような、ジャパンアズナンバーワンと言われた日本が何故こうなっているか。何故こうなっているか。1990年代。まだ皆さんがお生まれになるちょっと前です。その頃にバブルが弾けて、そして超低金利が起きました。つまり金利を、お金を失業させているんです。そして、何をやっているかと言うと、このクジラじゃないけども、貨幣から金融セクターにむりむりお金を注ぎ込んでいる訳です。そうすると何が起きるかと言うとさっき申し上げたような、自由の領域が減っていく訳です。心理学の実験にこういう実験があります。10%出来ているパズル、半分出来ているパズル、ほとんど出来てしまっているパズル、どれでも良いから選んでごらんって言うんです。子どもたちに選ばせる。選んでもらいます。どれ選びますか。まあパズルが好きか嫌いかによるけど。

(学生) 半分

(原口) 半分

(学生) 10%

(原口) 10%

(学生) 90%

(原口) 90%

3人ちょうど分かれた。まあどれ選んでも良いんですよ。まあこれ心理学の実験で知的コンピテンスの実験って言うんです。知的コンピテンスって言うのは、知的潜在能力、何でもですね、まさに自由の領域を広くとってるほうが、ごめんね9割を選んで。10%を選ぶ子が一番伸びているんですね。自分で何でもやっていこう。それを官製経済を作れば作るほど弱くなる訳です、だから僕らがやるべきことは、一人一人の、お互いがお互いを支えるその力を、それから社会の側にあるバリアをとって、そしてこの今の成長ランキングを一番、よくね、中国はけしからん、韓国はけしからん。言ってもみてください。中国1406%で伸びているんですよ。経済が追い付かなければ、安全保障も追いつくじゃないですか。中国との間もウィンウィン関係をやらなければいけない。韓国との間もウィンウィン関係をやらなければいけない。韓国この野郎って言っている人だって、韓国ここですからね。全然話にも何にもならない訳です。そもそも、よその国この野郎と言うこと自体が間違っている。この東洋大学は、沢山の人達が、国々の方々が来られていますね。私、東京大学に入った時にですね。東京大学って面白い大学で同じ学費でも、色んな学部で勉強出来るんですよ。私みたいに心理学と社会学と法学。今でも後悔しているのは、理科系の学部学科は取れなかった。でも理科系の学科取るともう大変なんで、生物学の先生に、小学校の頃からずっと思っていることを聞いたんです。それ、何かと言うと、何で僕は鉄で出来ていないんだ。鉄で出来ていたら、壊れないから良いじゃないですか。鉄で出来ていたら骨とか折れないじゃないですか。何で鉄で出来てなくて、なんでたんぱく質なんだ。先生だったら東大の先生だから解るでしょって聞いて聞きに行ったんですよ。そしたら、なんちゅうことを聞くんだ、と言って1か月くっておっしゃったんです。1か月後に、一博さんあの時の答えを自分なりに考えてみたから今から言っても良いかなとおっしゃったんで行ったの。そしたら何でおっしゃったかと言うと、これは仮説だけでも、地球上で一番、その種類が多いのがタンパク質なんです。だから巧緻なものを作るには多様である。多様であることはロバスト。強いことなんだっていうことを私その時初めてロバストっていう英語を知ったんですけど。強靱っていう意味らしいです。多様であることは強いこと。だから、色んな人達を是非、この東洋大学さんがですね下のラボでも、ナカザワ君が英語をそこで学んだって言ってたけど、そのもう最高の環境なんで、沢山の人達と、自分達を鍛えてください。もう時間が終わりになりましたんで。目次のところをご覧ください。今日言いたかったことは、まあ色んな年金の複雑な話をしましたけど、たった一つです。それは、自分達が人間の尊厳を保障されていれば、或は自分達が、さっき冒頭申し上げたこの名刺のように、人が人としての、尊厳を保障されていれば、我が国はもう一回、あの、日の昇るような日本に戻ります。それは何故か、凄く勤勉で知的生産の現場あるいは労働の現場で人が人である為に必要なもの、人が人である為に必要なこと、それを是非、この大学の中でも、友人との間の様々な関わり合いの中でも、確認をしていってください。これで最後にしますけども、私は松下政経塾というところで5年間やって、県会国会になりましたけど。政経塾出身の国会議員って今90人位居ますよね。まあ新聞を賑わす例も増えている。松下さん何を言っていたかを最後に申し上げたいと思います。いつも僕らに言っていたのは、素直な心っていうことを言っていました。今日皆さん本当によく聞いていただいたと思います。松下政経塾でですね、話し方講座っていうの一週間に亘ってあります。それはですね、話すことを勉強するんじゃないんです。聞くことを勉強するんです。一週間の間に、もう実に沢山の人達が来てくださって、お話をさせていただけます。しかし、限られた時間で、その一週間ぶっ通しで聞くっていうのは、いかに大変なことなのか。時間を共有していただく。皆さんの限られた一生の中のこの一瞬もですね、こうやって共有させていただくっていうことが、いかに有り難いことかって言うことを彼は言っていました。是非話を聞くっていうのは、相手を受け入れるって言うことですから。良いコミュニケーションをとって、是非、皆さんの未来を作ってください。政治の世界で、よく清濁併せ呑む、って言いますが、清濁併せ呑むっていうのは、濁るあることを知っ

て、清も濁もやるって言うことじゃないんですよ。悪いことやれって話じゃないんです。悪いことをする人も居るって言うことを知って、それを流す、濁を流すって言うことだと思う。だから本物は、長ずれば長ずるほど、すぐ今皆さんが、考えておられること、僕らもこの 19 とか 20 とか 21 で考えていなかったことは、今出来ていません。あの時に考えてたことが、あの時に友達を話してたことが、やっとその 3 分の 1、2 分の 1 が今出来ています。どうぞ友人を大切に、この素晴らしい大学から日本を立て直していただきますようお願い申し上げます、講演を終えたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

澁澤健太郎

原口先生、大変熱のこもったご講演をありがとうございました。今日の話の為に 50 時間予習をされているということで。私はどのくらい一つの講義に必要なのかなと今考えておりました。

大変内容としては濃い内容で、丁度時間通り、予定していた通りにしていただきました。感謝申し上げます。多分、大学は 90 分講義ですので、本来は、集中出来るはずなんですよ。本来は。まあ 45 分ですから、皆さん方はご承知だと思いますけど、既に複数の大学は 100 分制を導入しております。2019 年度からは、確か上智が入ってますけど、明治は 2017 年からですか、法政もそうだと思います。まあ本学でも 100 分講義はどうかと議論もされているように聞いておりますけども、これはまだ決まっている話ではないと思いますが、100 分集中すると言うのは、いかにも 90 分で、45 分きつい人は到底難しいんじゃないかな。と言うことですが、こういう現状も、徐々に、変わってはきているんですね。お話ありがとうございました。これからですね、先生にお座りいただきまして、まあ通常だと紙を配って、質問用紙を集めるということを従来やってた訳です。まあ今も実は、付置研究所が 8 ありますけども、残念ながら紙を配ったりしてやっているところも多いですが、本学ではレスポンスを使って、幾つかの講義が、非常にリアルタイムで、アクティブにやっていると。松原先生の講義もまさにそれを最初におやりになっている講義なんですけど、本日もレスポンスを使ってご質問を先生に直接、短い時間ではありますけどもしたいと考えております。今、ナンバー 160607052、こういう風に数字が出ていますので、お手元のスマートフォンで、数字を入れていただくと今日の講演内容に関する質問というのが出てきます。ここに質問を入れるとリアルタイムに、そのまま出てきますので、まあなかなか手を挙げて質問するのは難しいですけど、講義でも、今日の話だとそうだと思うんですが、是非スマートフォンを使ってですね、質問を今入れて送っていただきたいという風に思います。打つのも今速いので表示するともう出てきます。早速ですけども、これは、若者の投資を促進する為にはどのような政策が有効だと言えるか。お聞かせください。こういう質問でした。まあ金融庁の報告書には投資が重要だと言うことになっていましたので、こういう質問がきています。その下は、コメント。疑問に思いましたっていうコメントではないかと思いますが。若者の政策を、投資を、促進する為にどうなのかなという、こういうことだと思います。この辺は先生いかがでしょうか。

質問の回答 原口一博

投資を促進することが果たして良いかっていうことがちょっと答えになると思います。さっき申し上げたように、僕、クジラが食べちゃっている状況で投資をすると何が起きるかという損をします。損をしますよね。だから、私は投資を促進するんだったらこのクジラの適正規模にした後に、投資を促進するべきだ。という風に考えます。まさに下の質問にもあったけど、お金のない若者や、投資をしていない若者。つまり金利がゼロに近いってことで何が起きているかと言うと、お金が失業している状況でむりむり投資をするということについては、私は、それは少し数学を使えば解る話であって、有利ではないというか、最後に損をする人達今の状況で市場を見てみると。すみません。こっちから先は機微に触れるので止めていただいて良いですか。市場を動かすというか、僕財務金融委員会の筆頭理事もしているんで、不用意なことを言うとも市場が動くんで、止めましたけども、今の状況このクジラがいる状況

の中で投資をやるっていうことをそんなに金融庁の報告書のようにやってはならないというのが答えです。投資をして欲しいと僕が言っていた訳じゃないんです。金融庁の報告書が言っていた。だから是非、そこは誤解をしないでください。お金のない若者は投資をしていない。じゃあその人達でも暮らせるといのは、お金の失業をなくせばいいんです。つまり金利を徐々にあげていかなければいけない。金利を。むりむり投資に向かわせる。貯蓄から投資にっていうのは1990年代の終わりにやった訳です。そのことによって日本は弱くなった。或は、国民の皆さんからお金を取って、取り上げて、税と消費税と、それからこういう保険料です。金融セクターに回しすぎているんです。これを逆回転させなければいけないっていうのが僕の考え方です。これでよろしいですか。

澁澤健太郎

どうもありがとうございます。

次に年金の監視委員会が無くなったというお話がありましたが、これはどうして無くなったのか。また外部監視は今でも必要ということではないのか。という質問です。

原口一博

全くその通りです。年金業務監視委員会というのは、今でも絶対に必要なんです。だけど、これもトランプさんのあれと同じで、民主党政権でやった官僚機構に対する監視っていうのは、彼らにとっては凄く邪魔だった。厚生労働省はなんてやったかという、自分達でそれはチェックをしますっていう答えにした訳です。その答えにした結果、何が起きているかという、社会保険庁の時に起きていた。また不祥事がもう1回繰り返されているんです。これ2回同じことやって物凄く愚かなことなんで、自民党の中にも、この年金業務監視委員会をもう1回復活させなきゃいかんということが起きています。だから、私達は立法府の人間なんで、立法府の人間が行政府の人間に言いなりになってしまう。この政治をやっている限り、日本は立ち直らないと思います。

澁澤健太郎

どうも先生ありがとうございます。

続いて、ちょっと内容が、年金問題とずれますが。先生は、私達若い人達に投票して欲しいとおっしゃっていましたが、政府はなぜネット投票を可能にしないのか。ネット投票が行われれば、費用も削減出来るし、若い人の投票率も上がるのではないか。こういう質問が7番ですね。

原口一博

おっしゃる通りですね。私は投票して欲しいと皆さんに呼びかけたというよりは、政治に参加して欲しいと、主体的に参加して欲しいと。その中の一つが投票であると。電子投票についてもですね。私、その総務大臣の時からやっている岡山県のある市からですね、市長が熱心に働きかけられて、電子投票法の成立直前までいきました。ところが、まあ、ご案内のとおり、コンピュータには穴があって。今でもその不正選挙。選挙の票を不正にカウントしてしまう、といったことを排除できなかった。ハッキングされてデータが変えられたり、ハッキングされてお金が盗まれたり、この間も、セブンペイの話ありましたね。その技術的なところをまだクリア出来ていないんですね。まさにここにおっしゃっているように、電子投票をすれば凄く楽になります。今、高齢化しているから、或は若い人達が物凄く忙しくて、投票所に行くその時間さえ、或いはもっと言うと小さい頃から主権者教育、って言いますけども、主体として政治に関わって行く、ディベートもやっていくって言ったことをですね。併せてやるべきだという風に思います。皆さん良い質問ですね。

澁澤健太郎

どうもありがとうございます。

10 番に。税金を上げて年金を賄えるようにするべきだと思うか、という質問があります。これ税率って色んな消費税を意図として多分書いたのではないかと思いますけども、これどうでしょうか。税率をあげて年金を賄えるようにするべきか。

原口一博

私、政府政調会長の会長代行っていうか政府の税調のトップをしていましたが、消費税ということであればダメだと思います。消費税は多段階にかかる税であってアメリカでは採用していません。このことによって消費税の 31 年。消費税って平成元年に入っておりますね。平成が 31 年で終わっておりますけども、平成というのは、消費税の世紀なんです。消費税によって何が起きているのかということ。消費税は累進性、逆累進性って言っている。貧しければ貧しいほど酷いということは、皆さんよく解っておられると思いますけど、それに加えてですね、経済社会に対する負のインパクトが強すぎるんです。同じ間接税でもアメリカの場合は、売上税。同じ関節税の場合でもヨーロッパの場合は、いっぺんに 2 とか 3 とか上げないんですよ。それは何故かっていうと物凄い負のインパクトが強い。今消費不況になっているから、年金を税で賄っていった時にはそれが消費税ではだめです。私達民主党政権の時も、民主党の中でもずいぶん戦いました。私当時の野田総理と代表戦を戦ったんですけども、それは、消費税で戦ったんです。消費税を僕は、今、山本太郎さん、言っているけども、なくすべきだと思っている。なくした部分はなんでやれるかということ、国債延滞税であり、或は株式上取引課税であり、或は IT 課税であり、そこはいくらでも税の科目はある訳ですね。年金を税で更に厚くすべきなのか、っていうのは、今の丁度基礎年金の 2 分の 1 のところでもう止めておくべきだと思ってます。それよりも年金保険料を、払う人達のその所得割合を、高い人達がもう大体 1 千万で頭打ちなんです。保険料は、1 億以上貰う人達は、年金要らないでしょ。そここのところのベーシックインカム的な年金にするっていうのが、僕らの考え方です。次に書いてある。12 番、13 番か、ベーシックインカムについてはどう思われますか。まさにシンガポール型ですね、強制貯蓄をやらないのであれば、何時どんなことがあっても、これスウェーデン型なんですけども、老後どんな状況にあっても、生活することが出来ます。その安心を作ってるほうが社会は安定するし、コストも低いんです。だからベーシックインカムって言ったことをやるべきだし、もっと言うとその前提となる最低賃金を 1500 円まで上げるべきだと。10 年前僕ら民主党は 1000 円でやった訳です。最低賃金を 1500 円、特にやらなければいけないのは男女の賃金格差です。女性の頭の上にはまだ見えないガラスがある。最大ですね、この日本では 368 万円の男女格差が生まれるんです。賃金の。男性と女性と言うだけでこんなにあるっていうのは絶対ダメで。そここのところを埋めないといけないと思ってます。ベーシックインカムの手前の最低賃金をやったら中小企業潰れるでしょって必ず言うんです。確かにそうなんです。中小企業に、例えば 1500 円の賃金を払うことができるかと言うと、それは何のアシストもなければ払えません。フランスは最低賃金 1500 円をとうの昔に獲得しているんです。それは何故かということ、中小企業に対しては、政府がまさに補填をするんです。補填をしても、余りあるんです。今日僕が言ったのは、このクジラから、逆にいうと国民の方に財を移しなさいということなんです。財を。つまり一人一人が力を持つことによって、なんでこれがだめかっていうと、このクジラにはですね、穴が開いちゃってるんです。フライトの資金の穴が。

実際にバーチャルなマネーと通常のマネーは、岸田外務大臣の時に質問しましたが、約 6 倍だって言ってます。6 倍なんてもんじゃないですよ。

バーチャルなマネーが物凄く膨れあがっているんです。このバーチャルなマネーを実態のマネーに変えないことには、僕らの世界は 3 年に 1 回は金融危機に陥り、そして財政赤字になり、国力が落ちるん

です。それを変えなきゃいかんと思っています。

いい質問ですね。是非国会に来てほしいわ。

澁澤健太郎

ありがとうございます。

17番に、私は来年20歳になって年金を払う年になります。ですが、自分達が高齢者になった時に自分が支払った分を貰えるか解らない、年金を支払ってることになり不安になります。私達が高齢者になった時に年金が貰えるのか。

こういう質問、同じことを思っている人は多いと思います。

原口一博

そうですね。今のルートを変えない限り、答えはネガティブです。それははっきりと。でも、ですね、今の状況でも、さっき申し上げたように、基礎年金の半分は税で賄うんです。だから、自分が支払った年金額より余計な、皆が支えてくれる年金額の方が大きいんです。自分が払った分が、必ず報われるかどうかって言われれば、それは、報われます。言い方を変えると、年金だけで食べていけるか、老後、それは今の状況を繰り返している限りは無理です。何故かと言うと経済全体が、さっき一番最後にこういう図がありましたね。日本が、一番成長がまずいと。成長がまずい理由はたった一つなんです。国民から吸い上げているからなんです。それを国民に返さなきゃいけない。

澁澤健太郎

ありがとうございました。

20番にですね、国債を莫大なウェイトで買うことについて、どうお考えですかという質問がありますが、いかがでしょうか。

原口一博

ほんとに皆さん、これ誰？ちょっと国会に連れて行きたい。だめです。それはまさにタコが自分の足を食べている様なものなんです。国債をこっぴどく買ってる。でも、もうここまでやると、僕らが何をやっても、もうとめてますよ。僕が言っていたって言わないでください。正直言ってクラッシュシナリオを考えている訳です。それは何かというと、これが起きると金利がパーンと上がると思っています。今僕らが銀行にお金を預けたら0.0001くらいでしょ？アベノミクスが何かを言うと、企業の資金調達コストを限りなくゼロにしますよ、というのがアベノミクスなんです。それはある意味、閉じた社会の時はそれはオッケーなんです。閉じた社会。企業の資金調達リスクを限りなくゼロにして、閉じていればその企業が儲かったものは、何に来るかということ、皆に来る訳です。ところが今社会が、世界が閉じていないんです。ここで集めたお金は何処に行くかということ外にフライトする訳です。パナマ文書。小さなパナマの法律事務所で見つかりましたね。あの資金のフライトしたもの。日本人だけで54兆円です。その人達は本来であれば、税を払うべき人達。GAFAと言われる人達、Google, Apple, Amazon, Facebook。そういう人達にも、ちゃんとお金を払って下さいね。デジタル課税ていうのが、出てきているのが何かというと、まさにバーチャルなところで儲かり過ぎていんです。皆さん、是非あのミヒャエルエンデの遺言という、ドイツの童話作家の、ネットで検索して、確かNHKがやってたと思うんで見てください。ミヒャエルエンデは何を言ってるかということ、“お金は腐らせなきゃいけない”って言ってるんです。お金を。それは何かと言うと、お金と言うのは数字の記号だから、放っておけばどんどんどんどん大きくなってしまふ。大きくなっている記号を、タヌキの葉っぱみたいに土に還しておかないと、記号と実態との間がこんなに広がる。そこで何が起きてるかということ、格差が生まれ、紛争が極大

化する。それを変えなきゃいけない。ちょっと話があれですけど、若い方々なので、僕らは、パラダイムを、変えようとしている訳です。それは何かって言うと、エネルギーのパラダイムから変えようとしている。エネルギーは、大規模独占集中搾取なんです。大規模独占集中搾取。解ります？ちょっとですね。太陽のエネルギーを、物理の言葉で固定化って言うんですけども、僕ら人間が使うことが出来るようにするために何が必要かって言うと、太陽エネルギーを僕ら人間が使えるように出来るものはたった一つしかなかったんです。植物です。太陽エネルギーを二酸化炭素と光合成をやって、そして、それが僕らのエネルギーの糧になってたんです。何が起きてたかと言うと、水、ナイル川を管理できた人は、ファラオとなり、黄河を管理出来た人は皇帝になり。日本も同じですよ。

仙台から来られている方おられますか。宮城から、宮城は、伊達藩です。伊達百万石って言うじゃないですか、あれ百万石って何かというと、1 年間に伊達藩が摂取できるエネルギーの数量なんですよ。僕は佐賀だから、佐賀 36 万石なんです。36 万石を年間フローエネルギーで独占しますよ。ということなんです。それが変わったのが例の産業革命。エネルギーのタイムカプセルが生まれる訳です。植物が死んで石炭になる。植物が死んで石油になる。ペリー来航って何かって言うと、地下からエネルギーを取り出した。ストップなエネルギーを使えるようになった人達と、フローなエネルギーでやってる江戸幕府との戦い。どっちが強い。エネルギーのタイムカプセルを持っている方が強いに決まってる。

でも、ずーっと、僕らのエネルギーパラダイムは、大規模独占集中搾取、これをやってる限りは紛争が起きる。これを逆にしようとしたのが僕ら民主党政権。小規模分散協働、未来の責任に変えようとした訳です。太陽のエネルギーはみんなに降り注ぐ、だから、それを奪い合わない。でも、中にメガソーラーみたいなのを作ったり、メガソーラーって何かというと、人の頭の上に傘を置いて、エネルギーを奪っていく、だから僕は孫正義さんと 1 年くらい論争しました。彼はメガソーラーをやろうとした。今はもうやめてます。もう大規模集中搾取のパラダイムをやっている限り人は幸せにならない。すみません、別の話になってしまいました。

澁澤健太郎

最後の質問になると思います。23 番ですかね。個人型拠出年金をこれからやるべきなのか。

原口一博

どうでしょうね。個人型拠出年金事態を否定はしないんだけど、この市場環境でやってきた場合に、何が起きるかということを考えておいたほうが良い、むしろさっき申し上げたようなエネルギーパラダイムを変えて、そして地から湧き上がるようなファウンテン型というんですけど、そういうことをやっていった方が、むしろ iDeCo が何をやるかとしているかということ、地域通貨をブロックチェーンで作ろうとしている。大規模独占集中搾取の世界の金融繁栄の中から僕らを守るためには、地域を自分達を支える社会的マネーに、余計大きな付加価値を付けてそれを地域に回す。僕の佐賀県だけでも年間 5 千億、外に払ってます。原発があるにも関わらず。原発があるにも関わらず、5 千億払っているのが、中を埋まったとしたら物凄く豊かになる訳です。そっちじゃないかなと僕は思います。

澁澤健太郎

どうも先生、ありがとうございました。

原口一博

これ、いただいていたらお答えします。

澁澤健太郎

事務所に送らせていただきます。

時間を超過するような形で、大変お忙しい中、代議士どうもありがとうございました。もう一度拍手をお願いします。